

○縣訓令第四百五十三號

明治二十五年八月三十日

郡村役場所

簡閱點呼召集ハ毎年二月ヨリ三月迄ノ間ニ執行セラレ候處來ル二十六年ヨリハ七月ヨリ九月迄ノ間ニ於テ執行ノ事ニ改定相成候條町村長ハ其旨在郷下士兵員へ豫テ示シ置クヘシ但點呼執行ノトキ町村長ハ兵員名簿令狀等ハ必ス携帶シ點呼場へ出頭スヘシ

○埼玉縣訓令第三百三十二號

明治二十九年十二月二十五日

警察分署

陸海軍召集ニ當リ應召員ノ宿泊ニ供スル爲メ沿道ノ町村ニ一箇所以上ノ軍用旅舎ヲ定メ之レニ看板及標旗若クハ標燈宿泊料(兵員支給日當額以內)等ヲ豫定シ町村長及巡查駐在所ニ通達シ同時ニ知事ニ報告スヘシ但從前豫約シアル分モ此際更ニ報告シ以後異動アルトキハ其都度報告スル儀ト心得ヘシ

○埼玉縣訓令第二十三號

明治三十年三月五日

郡村役場所

陸軍召集事務取扱手續左ノ通定ム但明治二十七年<sup>二</sup>埼玉縣訓令第二十一號同年<sup>三</sup>埼玉縣訓令第四十七號同年<sup>九</sup>埼玉縣訓令第九十七號明治二十八年<sup>五</sup>埼玉縣訓令第四十三號同年<sup>六</sup>埼玉縣訓令第五十四號同年<sup>六</sup>埼玉縣訓令第五十五號同年<sup>八</sup>埼玉縣訓令第七十三號ハ本手續施行ノ日ヨリ廢止ス

陸軍召集事務取扱手續

第一條 郡長並町村長ハ其所轄內在郷軍人名簿ヲ備置キ異動アル毎ニ加除訂正シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第二條

在郷軍人名簿ハ近衛師團第一師團又ハ歸休兵、豫備役、後備役等ニ區別

町村役場所ニ在豫備役、後備役ヲ合冊トシ見出テ付シ置クモ妨ケナシ

第三條 郡長ハ特ニ第一國民兵名簿ヲ備置キ異動アル毎ニ加除訂正シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第四條 第一國民兵ノ異動アルトキハ町村長ヨリ其事由ヲ具シ速ニ郡長ニ報告スヘシ

第五條 郡長ハ第三樣式ニ依リ毎年十二月末日將校下士兵員現在表ヲ調製シ翌年一月十日

限知事ニ報告スヘシ

第六條 郡長ハ充員召集及國民兵召集補充兵召集ノ發令アリタルトキハ第四樣式ニ據リ召集應否人員表ヲ調製シ發令後十日以內ニ知事ニ報告スヘシ

第七條 郡長ニ於テ陸軍召集條例施行細則第四十三條ニ依リ召集旅費到達時間表ヲ領收シタルトキハ毎年三月十五日マテニ其謄本ヲ知事ニ差出スヘシ

第八條 郡長ニ於テ陸軍召集條例施行細則第四百二十二條ニ依リ國民兵人員表ヲ調製シタルトキハ毎年十二月二十日マテニ其謄本ヲ知事ニ差出スヘシ

第九條 本手續ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第一樣式

(用紙美濃紙)

何年近衛師團(第一師團)豫(後)備步(騎)(砲)(工)(輜重)兵(輜重輸卒)看護手ノ部



徵兵籤番號	編入月日	町村大字	兵種等級	姓	名
何年徵兵第何番	何月何日	何町(村)大字何	何何等卒兵	何	某
備考					
備考					
備考					

一 本簿ハ所管及年度兵種ヲ區別シ調製スヘシ  
 一 歸休兵ハ何年近衛師團(第一師團)歸休兵何兵ノ部トス  
 一 歸休兵ハ編入月日ノ區劃ニ歸休ノ月日ヲ記入ス  
 一 將校下士ハ本簿ニ準シ別ニ調製スヘシ(第一補充兵ニシテ教育ヲ受ケタルモノモ本簿ニ準シ別ニ調製スヘシ)

第二様式 (用紙美濃紙)

第一國民兵名簿

何兵ノ部

姓	住	誕	兵種官等	族	備考	姓	住	誕	兵種官等	族	備考
名	所	生		籍		名	所	生		籍	



一 本簿ノ編冊方ハ左ノ如シ  
 歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、輜重輸卒ト各別紙ニ記シ順次ニ編冊ス將校、下士モ用紙ヲ別ニシ各兵種ノ上部ニ置キ年齡ノ若キ者ヨリ編冊シテ何年國民兵ノ部ト記シタル口書ヲ貼付シ置クヲ要ス

一 本人姓名ノ肩ニ某長(次)男兄(弟)等本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ

第三様式 (用紙美濃紙)

豫備(後備)(歸休)兵現員表 明治何年何月日調 何郡役所

編入年度	所管		師團						計總
	近	術	師	團	第一	師團			
何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年
計									

一 本表中將校下士ノ人員ハ合算セス餘白ニ左ノ如ク記載スヘシ  
 何兵大(中)(少)佐何人何兵大(中)(少)尉何人一(二)(三)等軍醫何人一(二)(三)等軍吏何人何兵曹長(何兵一(二)等軍曹)何人一(二)(三)等書記何人

第四様式

召集應否人員表

町村名	階級	召集總員			召集ニ應タル人員			召集ニ應セサル人員				
		將校	下士	卒	失蹤逃亡	疾病	犯罪	故ナク者	失蹤逃亡	疾病	犯罪	
何町(村)												
計												



補充兵ノ應否人員ハ朱書ヲ以テ區別スヘシ

○埼玉縣訓令第三百二十八號 明治二十九年十二月二十八日

郡役所 警察署  
警察分署 町村役場

陸軍召集條例第七條ノ地方官廳及公署ノ臨時検査ノ儀ハ府縣廳以下ノ官廳及公署ハ聯隊區司令官或ハ副官ヲシテ時々巡回検査セシムル旨第一師團長ヨリ申來候條此旨心得ヘシ

○埼玉縣令第三十九號 明治三十年七月二十日

本年陸軍省令第十六號ニヨリ在郷陸軍軍人及補充兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應セントスル者ノ規定第一師團長ノ協議ニ依リ左ノ通定ム

第一條 休職停職ノ上長官士官准士官ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應セントスル者ハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ町村長郡長又ハ市長及聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ師團長ニ届出ヘシ

第二條 充員召集ニ方リ集合場ニ集合スヘキ下士兵卒補充兵及島廳郡市吏員ノ引卒ヲ受クヘキ補充兵並ニ教育召集ニ應スル補充兵ニシテ便宜上寄留地ヨリ直ニ編入部隊教育召集ニ在リテハ召集部隊以下同シニ到ラントスル者ハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出許可ヲ請クヘシ

第三條 前條ノ許可ヲ請ケタル者ハ本籍市町村ニ於テ召集旅費受領人ヲ定メ豫メ之ニ委任狀ヲ渡シ置キ其住所氏名ヲ町村長又ハ市長ニ届出ヘシ前條ノ許可ヲ請サル者ニシテ寄留地ヨリ直ニ編入部隊演習召集ニ在テハ召集部隊以下同シ若クハ集合場ニ到ラントスルトキモ亦同シ 但尙其

趣ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ

第四條 前條ノ届出ヲ受ケタル市長町村長ニシテ自ラ召集旅費支給ヲ爲ササル者ハ其地方ノ召集旅費出納官吏又ハ分任出納官吏ニ召集旅費受領人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第五條 市町村長ハ第二條ノ許可ヲ請ケタル者ノ召集令狀ヲ召集通報人ニ送付スルト同時ニ應召員ノ編入部隊ニ到著スヘキ期日ヲ達スヘシ

第六條 召集通報人召集令狀ヲ受領スルトキハ召集旅費受領人ニ旅費支給ノ日時及場所ヲ通報スヘシ

第七條 召集通報人召集令狀ヲ本人ニ交付スルニ方リテハ場合ニ依リ本人ニ宛テ編入部隊若クハ集合所召集事務所ニ送付スヘシ

第八條 召集旅費受領人旅費支給ノ通報ヲ受ケタルトキハ指定ノ日時ニ旅費ヲ受領スヘシ

集合場ニ集合スヘキ者ニシテ直ニ編入部隊ニ到ル者ノ集合場ヨリ編入部隊迄ノ旅費ハ編入部隊ニ於テ追給スヘシ

第九條 應召員召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ指定期日ニ編入部隊所在地若クハ集合場ニ到著シ召集事務所又ハ召集部隊ニ届出ヘシ遠隔ノ爲メ指定ノ期日ニ到著スルコト能ハスト認メタル者ハ出發ニ際シ寄留地町村長又ハ市長若クハ警察官吏ニ就キ出發日時ノ證明ヲ受ケ編入部隊ニ差出スヘシ



第十條 充員交付官ハ召集事務所閉鎖ニ際シ寄留者ニシテ到着セサル者アルトキハ其理由ヲ記シ編入部隊長ニ通知スヘシ

第十一條 第一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第三條ノ届出ヲ爲ササル者召集通報人正當ノ事由ナクシテ第六條ノ通報ヲ遲緩シタル者及召集旅費受領人正當ノ事由ナクシテ旅費ノ受領ヲ遲緩シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 本令中郡長トアルハ島司、町村長トアルハ戸長及之ニ準スヘキ者町村トアルハ町村ニ準スヘキモノヲ包含シ市長トアルハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長ニ該當シ市トアルハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區ニ該當ス

第十四條 寄留地師管ノ兵籍ニ編入サレタル者及寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲ス場合ノ者ニハ本規程ヲ適用セス

明治二十七年七月十三日

郡役所 警察署  
警察分署 町村役場

○埼玉縣訓令第七十七號  
海軍召集事務細則左ノ通定ム

海軍召集事務細則

第一條 本則ハ海軍豫備役後備役下士卒臨時召集事務ノ細則ヲ規定スルモノトス

第二條 本則中臨時召集令ト稱スルハ明治二十七年<sup>七月</sup>海軍省令第七號海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令ノ略稱トス

第三條 海軍豫備役後備役下士卒ノ召集地ハ横須賀鎮守府海兵團トス

第四條 町村役場ニ於テハ海軍豫備役後備役下士卒名簿ヲ備置キ異動アル毎ニ訂正加除シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第五條 郡長及警察署長同分署長ハ發令ニ際シ召集令達書召集令狀ノ配達ヲ迅速ナラシムル爲メ差遣スヘキ脚夫ヲ豫定シ置クヘシ

第六條 郡長ハ臨時召集令第九條ニ依リ召集地ニ到ル沿道便宜ノ町村ニ海軍軍用旅舎ヲ豫約シ其住所姓名ヲ警察署長同分署長ニ通知シ同時知事ニ報告スヘシ

第七條 郡長ハ第一書式ニ準シ召集令達書及第二書式ノ警報ヲ常ニ調製シ置クヘシ

第八條 警察署長同分署長ハ第一書式ニ準シ巡查駐在所ニ發スル召集令達書及第二書式ノ警報ヲ常ニ調製シ置クヘシ警報ハ巡查駐在所ニ於テモ亦調製シ置クヘシ

第九條 町村長ハ第二書式ノ警報ヲ常ニ調製シ置クヘシ

第十條 鎮守府司令長官ヨリ召集ノ通知アリタルトキハ知事ハ第一書式ヲ以テ郡長及警察署長同分署長ニ達スルモノトス

第十一條 郡長ハ前條ノ達ニ從ヒ速カニ警報ヲ掲ケ臨時召集令第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 警察署長同分署長ハ第十條ノ達ニ從ヒ速カニ警報ヲ掲ケ其旨ヲ巡查駐在所ニ達



シ臨時召集令第十五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 町村長ハ郡長ノ達ニ從ヒ速カニ警報ヲ掲クヘシ若シ召集ニ應スヘキ者ニシテ故  
ナク出發ヲ猶豫スル者アルトキハ直ニ出發セシムヘシ

第十四條 警察官ニ於テ召集ニ應シ難キ者ノ届書ニ證認ヲ爲スハ第三書式ニ據ルヘシ

第十五條 警察署長同分署長ハ召集ニ際シ發程ヲ督促シ若クハ違令者ヲ處分シタルトキハ

其住所姓名事故等ヲ記シ知事ニ報告スヘシ

第十六條 郡長ハ第四書式ノ召集應否人員表第五書式ノ召集令下達速度表ヲ作り發令後七

日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第十七條 郡長ハ臨時召集令第二十二條ニ依リ出發シタル者アルトキハ其時々知事ニ報告

スヘシ

(第一書式)

(書式中圈點ハ發令ノ  
際記入スルモノトス)

召集令達書

何日横須賀鎮守府所管海軍豫備役(後備役)下士卒召集令アリ	郡役所 (警察署) (同分署)
年月日	埼玉縣知事 爵姓 名
(特ニ明治何年何月何日以後現役ヲ離レタル者ヲ召集ノトキ)	
何日何年何月何日以後現役ヲ離レタル横須賀鎮守府所管海軍豫備役(後	

備役)下士卒召集令アリ

(第二書式)

(用紙西ノ内縦三枚繼)

警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事

明治何年何月何日

警報

明治何年何月何日以後現役ヲ離レタル海軍豫備役(後備役)下士  
卒召集相成候事

明治何年何月何日



(第三書式)

右證認候也

何警察署長(何警察分署長)何町村巡查駐在所

年月日 警部(巡查) 姓名 印

(第四書式)

召集應否人員表

何村	何町		町村名	階級	召集員	召集ニ應シタル人	召集ニ應セサル人員		
	卒	下士					失踪逃亡	疾病	罪犯

(第五書式)

召集令下達速度表

計		

年月日	縣廳ヨリ令達ノ到着		現金受領ノ日時		令狀配達脚夫ノ發著		令狀受領郡町村		役名並姓名	
	日時	日時	日時	日時	出	著	日時	郡	豫備役	豫備役
									下士	何某
									後備役	何某

知事爵姓名殿

何郡長 姓名 印

○埼玉縣訓令第六十號

明治三十年五月二十五日

郡 役 所

新兵ニシテ徵集延期出願中入營期日切迫ノタメ發程シタル以後願意ノ許可ヲ得テ歸郷スル場合ニ於テハ歸路旅行ニ對シテモ旅費支給スル義ト心得ヘシ



第二款 徵發

○乙第四十八號 明治十六年五月二十八日

徵發令施行相成候ニ付テハ左ノ通相心得實際行届候様可取計此旨相達候事

一 郡長戸長ニ於テ徵發書ヲ受タルトキハ速ニ届出ヘク戸長ニ在テハ郡ヘモ長報告スヘシ

一 徵發事務條例第四十一條ニ依リ組合町村ヲ定メタル時ハ其郡長連署届出ヘシ

一 同例第五十一條ニ依リ郡長戸長ハ平常ノ賃價雇賃損料及代價等ヲ調ヘ置クヘシ

○丁第十七號 明治十六年二月二十二日

徵發事務條例第四十九條ニ依リ縣下入間郡川越町秩父郡大宮郷大里郡熊谷驛南埼玉郡粕壁驛市場ノ物價十三年ヨリ十五年迄三年間ヲ平均製表シ陸軍省ヘ差出候筈ニ付其部内市場ノ物價別紙書式ニ倣ヒ取調來ル二月二十八日限り可差出此旨相達候事 但本年ヲ初度トシ來十七年以降年々期日通り可差出事

何郡何市場平均物價表

何郡役所

種類	平均價	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年
玄米	一石	七二四六	一一一一	一〇二〇四	九五二〇	九二二〇

自十二年三箇年至十四年

品名	單位	精米	鹽	味噌	醬油	漬物	梅干	麥	秣	薪	炭
精米	一石										
鹽	一石										
味噌	一貫目										
醬油	一石										
漬物	四斗樽入										
梅干	四斗樽入										
麥	一石										
秣	一貫目										
薪	一貫目										
炭	一貫目										

○訓令第九十七號

明治二十三年十一月二十八日

徵發物件調査方梗概左ノ通改正ス

徵發物件調査方梗概

町郡役場所



第三號ノ一

一本表ハ美濃紙ヲ用ヒ一郡毎ニ調製スルモノトス  
 二乙部上欄第二行(何町)第三行(何村)ハ町村ノ區域内人家連接セルト散在セルトニ拘ハラ  
 ス町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノ即チ舊町村ヲ掲クルモノトス  
 町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接シタル  
 モノモ亦第二第三行ニ記載ス其人各家各部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノ  
 トス  
 三同第五行組合町村ハ乙部第二行第三行ノ例ヲ本劃第一行ニ記シ乙部第四行ノ例ヲ本劃第  
 二行ニ記スヘキモノトス  
 四家屋劃内戸數ハ現在軒數ヲ掲クヘキモノニシテ其軒數トハ官廨寺院學校製造所水車場倉  
 庫廩病院ヲ除クノ外人ノ現在住居スルト否トニ拘ハラス町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ  
 云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校町村役場等ニ使用スルモノモ本劃ニ算入スヘキ  
 モノトス(二十三年訓令第一〇三號ヲ以テ改正)  
 同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校町村役場等ニ使用  
 スルモノモ亦算入スヘキモノトス  
 同宿舍用坪數ハ官署學校町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス  
 五官廨劃ハ官署及郡役所町村役場ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス

六寺院劃内軒數ハ寺院内ニ堂庵幾棟數アルモ之ヲ分別セス一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモ  
 ノトス

同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス又寺院ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校町村役場等ニ使  
 用スルモノモ算入スヘキモノトス

同宿舍坪數ハ官署學校町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス  
 七學校劃内軒數ハ學校内ニ教場寄宿舎等幾棟アルモ之ヲ分別セス一學校ヲ一軒トシ計算ス  
 ヘキモノトス

同坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス

八製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラス總テ掲クヘキモノトス  
 但官立ニ係ルモノハ官廨ノ箇數ニ記入スヘキモノトス

九水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スル箇數ヲ記入スヘキモノトス  
 十病院劃内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモ之ヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモ  
 ノトス

十一日本形船舶劃内舩漁小廻ノ劃ヘ日本形船舶五十石未滿及倉庫船水田耕作用船及水災豫  
 備船ヲ算入シ汽船ニ非サル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ劃ヘ二十噸未滿ハ舩  
 漁小廻ノ劃ヘ朱書列記スヘキモノトス 但游船渡船橋用船ハ表上スルニ及ハス

十二醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シ



タル職工ニ限り記入スヘキモノトス 但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノ譬ハ木挽職ニテ柚職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名内何名柚職兼業ト記入シ柚職何名ノ内へ算入セサルモノトス 又表式職工中其郡ニナキモノハ其ナキヲ記スルニ及ハス

第三號ノ二

- 一本表記載方ハ前第三號ノ一第一項乃至第三項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二乗馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又會テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬駄馬耕馬ニ役スルモノト雖モ乘馬ノ劃ニ記載スヘキモノトス
- 三駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又會テ駕馬ニ役セシモノ現在乘馬ハ除クハ現今駄馬耕馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ劃ニ記載スヘキモノトス
- 四駄馬ハ現在駄馬ニ役スルモノヲ記載ス又會テ駄馬ニ役セシモノ現在乘馬ハ除クハ現在耕馬ニ役スルモノト雖モ駄馬ノ劃ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

- 一本表ハ前第三號ノ一第一項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 三漬物ハ澤庵漬ヲ記入スヘキモノトス
- 四一樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

○訓令第八十九號

明治二十三年十月二十八日

町 郡 役 所

徵發物件表等左ノ手續ニ依リ調製差出スヘシ 但本縣十九年乙第七十八號及二十一年月一訓令第二號ハ廢止ス

- 一 徵發事務條例第二十一條ニ依リ郡長ヨリ差出スヘキ附錄第三號ノ一表ハ正副二通ヲ製シ二月末日限り當廳へ差出スヘシ
- 一 町村長ハ同條例附錄第三號ノ二表及三表調製ニ要スル物件ノ員數ヲ取調隔年二十三年十月第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トス自後之ニ準ス 毎ニ郡長ニ差出シ郡長ハ同表ノ雛形ニ依リ製表シ翌年二月十五日限り當廳へ差出スヘシ
- 一 町村長ハ毎年附錄第四號及第五號ニ登記スヘキモノヲ取調郡長ニ差出シ郡長ハ同表ノ雛形ニ依リ製表シ翌年二月末日限り當廳へ差出スヘシ
- 一 町村長ハ徵發令第十二條第二項馬匹第十三條第二項蹄鐵工等取調郡長ニ差出シ郡長ハ第一第二書式ニ依リ郡別ニ調製毎年一月三十一日限り差出スヘシ(二十六年訓令第四二四號同第五二〇號ヲ以テ改正)
- 一 町村長ヨリ差出スヘキ様式及期日ハ郡長之ヲ指示スヘシ

第一書式(用紙美濃野紙)(二十六年訓令第四二四號ヲ以テ追加)

明治何年十二月三十一日調

何郡徵發馬匹現在表

第十類 兵事 第二款 徵發



郡名	馬		馬		馬		合計
	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	
何郡							
何郡							
、、、							
、、、							
考備	耕馬ハ總テ駄馬ノ内ニ合算ス可シ						

第二書式

(用紙美濃罫紙) (二十六年訓令第四二四號ヲ以テ追加同第五二〇號ヲ以テ改正)

明治何年十二月三十一日調

何郡役所

蹄鐵工住所姓名表

何郡	町村大字番	地	町村役場所在地名	姓	豫備役
					何之某
					後備役 何之某

○縣訓令第五百七號

明治二十六年六月六日

町村役場所

明治二十三年十月訓令第八十九號徵發物件表調製手續第四項ニ依リ獸醫及蹄鐵工住所姓名表取調差出シタル後開業若クハ廢業又ハ住所姓名等ニ異動ヲ生シタルトキハ町村長ハ十月十日迄ニ郡長ニ報告シ郡長ハ同月二十五日迄ニ縣廳ヘ報告スヘシ

○埼玉縣訓令第一百十號

明治二十九年十二月一日

町村役場所

明治二十三年十月本縣訓令第八十九號一項及二項ノ徵發物件表ハ明治二十五年十二月十日陸軍省訓令甲第八號雛形ニ依リ調製スル儀ト心得ヘシ

○埼玉縣訓令第二百二十四號

明治二十九年十二月二十二日

町村役場所

徵發物件表中人夫ノ數ハ自今豫備後備軍人及補充兵ヲ除キ調製スル儀ト心得ヘシ  
○縣訓令第五百二十一號 明治二十六年六月十三日 町村役場所  
第一師團獸醫雇入規定別冊ノ通相定候旨申來候條右ニ依リ取扱フヘシ但町村長ハ本規定第



二ニ據リ其雇入ニ應スヘキ獸醫ノ住所姓名並ニ前年度ノ營業所得金高左ノ書式ニ依リ取調  
毎年一月十五日迄ニ郡長ニ差出シ郡長ハ之ヲ一表ニ調製同月三十一日ニ差出スヘシ 但別  
冊ハ別ニ頒ツ

書式

明治何年何月調

雇入ニ應スヘキ獸醫ノ住所姓名營業所得金高表

營業所得金高	郡	名	町	村	字	番	地	町村役場所在地名	氏	名

(別冊)

第一師團獸醫雇入規定

第一 本規定ハ第一師團徵發馬匹事務細則ニ準シ戰時若クハ事變ニ際シ獸醫雇入ノ件ヲ規  
定スルモノトス

第二 府縣知事ハ徵發馬匹事務細則第十三條ノ手續ヲ以テ其管下現住ノ獸醫ニシテ本規定  
ニ據リ雇入ニ應スヘキ者ノ住所姓名並ニ各自前年度ノ營業所得金高ヲ師團長ニ通牒  
ス

第三 師團長ハ第二條ノ人員ヲ各最寄團隊ニ配賦シ二月十五日迄ニ之ヲ各團隊長ニ告達シ  
且府縣知事ニ移牒ス

第四 府縣知事ハ更ニ之ヲ本人ニ通達ス  
團隊長ハ配賦セラレタル獸醫ノ中ニ就キ其所要人員ニ應シテ任意ノ者ト契約シ四月  
盡日迄ニ其人名ヲ師團長ニ報告スヘシ 但過員ハ豫備員ト定メ置クヘシ

第五 雇入ニ應スル獸醫ニハ應召中左ノ日給及旅費ヲ給ス 但應召中寢具食料ハ官給トス  
日給 各自前年度營業所得金高ノ日割ヲ基トス

第六 旅費 汽車汽船ハ下等賃金其他ハ陸路一里金拾錢  
雇入ニ應スヘキ獸醫ハ其府縣知事ヨリ告示ノ團隊長ト契約シ第一書式ノ誓約書ヲ出  
シ且居住地ノ市區町村長ニ其寫ヲ添ヘ届出ヘシ 但代人ハ第四條ノ豫備員中可成本  
人住所ト最近地ニ居住スル者ヲ撰フヘシ

第七 旅行又ハ疾病二週日以上ニ互ルモノモ亦前項ニ準シ届出ヘシ  
團隊長ハ獸醫ト契約了レハ其雇入書(第二書式)ヲ本人居住地ノ市區町村長ニ送附シ  
市區町村長ハ之ヲ保管シ且裏書旅行里程ノ證明ヲナス



第八 戰時若クハ事變ニ際シ豫約獸醫ヲ雇入ル、ニハ雇入書ヲ以テス市區町村長ハ蹄鐵工徵發ノ令ヲ受クルト同時ニ雇入書ヲ本人ニ送達ス其手續ハ徵發馬匹事務細則第二十五條ニ同シ 但本人第六條第二項ノ届出ヲ爲セシ後ニ在テハ其代人ニ送達スルモノトス

第九 獸醫若クハ其代人雇入書ヲ受タル時ハ其受領ノ時刻ヨリ六時間以内ニ出發シ速達ノ方法ヲ用ヒ(一晝夜少クモ十六里詰)豫約ノ場所ニ參著シ其雇入書ヲ差出スヘシ 本人二週日以内ノ旅行又ハ疾病ノ際雇入書ヲ受タルトキハ本人若クハ家族ハ直ニ其代人ニ之ヲ送達スルノ責任ヲ有ス

第十 豫約獸醫他府縣ニ轉住セシトキハ新住地市區町村長ノ與書ヲ以テ各自豫約ノ團隊長ニ契約取消ヲ申出又舊住地市區町村長ヘ其旨届出ツヘシ

同府縣内ノ轉住ニ在テハ新住地市區町村長ノ與書ヲ以テ豫約團隊長竝ニ舊住地ノ市區町村長ニ其趣ヲ届出テ新住地市區町村長ハ雇入書ノ住所及里程ヲ訂正ス

第十一 豫約獸醫ノ代人他府縣ニ轉住セシトキハ本人ハ速ニ第六條但書ノ主旨ニ原ツキ他ノ代人ヲ撰定シ其趣ヲ豫約團隊長竝ニ居住地ノ市區町村長ニ届出ツヘシ 代人同府縣内ノ轉住ニ在テモ本人ヨリ之ヲ豫約團隊長竝ニ居住地市區町村長ニ届出ツヘシ

第十二 豫約獸醫他府縣ヘ轉住セシトキハ團隊長ハ直ニ其豫備員中ヨリ補缺スヘシ其手續

ハ第四條及第七條ニ同シ  
 第十一條第二項ノ場合ニ在テ團隊長ハ豫約獸醫代人ノ居住地遠隔ノ爲メ不便ト認ムルトキハ本人ヲシテ他ノ代人ヲ撰定セシムルヲ得

(第一書式)  
 誓約書

何府縣郡市區町村字番地  
 獸醫 何 之 某  
 右今般第一師團獸醫雇入規定ノ主旨ヲ遵守シ雇入承諾候ニ就テハ毫モ違背仕間敷ハ勿論萬一本人病氣又ハ旅行中ノ時ハ代人ヲ以テ應召可致候仍テ代人連署シ此段誓約仕候也  
 何府縣郡市區町村字番地

代理人 獸醫 何 之 某 (印)  
 右 何 之 某 (印)  
 明治 年 月 日  
 團隊長姓名殿

第二書式 (代人ノ分ハ總テ朱書)  
 獸第何號

雇入書

團印  
 獸第何號雇入書



何府縣郡市區町村字番地

獸醫 何之某

何府縣郡市區町村字番地

右代人獸醫 何之某

右豫約之通雇入候條遲滯ナク何所へ參著ス  
ヘシ

明治 年 月 日 午 時 分

團隊長姓名 (印)

長町市  
印村區

右正ニ領收候也

明治 年 月 日

何府縣郡市區町村長 (印)

傳達書

獸第何號雇入書送附候也

明治 年 月 日 午 時 分

何市區町村長 (印)

何之某

受領證

何之某(代人何之某)ニ宛タル獸第何號雇入

書正ニ受領候也

明治 年 月 日 午 前 後 時 分

右 何之某 (印)

同代人 何之某 (印)

代人 何之某殿

何市區町村長殿

雇入書裏書

本人居住地ヨリ示定ノ所ニ到ル里程證明(代人ノ分ハ各區  
畫ノ左側ニ朱書)

汽車路

何哩何チエン何リンク

陸路

何里何町何間何尺

旅行日數

何日間

市區町村長姓名 (印)

○丙第五百一號

明治二十九年十二月四日

郡 役 所

徵發事務條例第五十五條及同第五十六條ニ依リ徵發馬匹評價委員ヲ撰定シ左ノ人名書ヲ製  
シ毎年一月四日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

何郡書記(何町「村」長) 何 某

何町(村)大字何

何々職業 何 某

○埼玉縣訓令第百二十九號

明治二十九年十二月二十五日

町 郡 役 所



第一師團徵發馬匹事務細則師團長ノ照會ニ依リ明治三十年度ニ限り別冊ノ通施行ス 但明治二十六年<sup>五月</sup>縣訓令第三百九十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢ス

第一師團徵發馬匹事務細則

第一章 總則

第一 本細則ハ戰時若クハ事變ニ於ケル徵發令第十二條第二項馬匹及ヒ其使用ニ必要ナル屬具竝ニ第十二條第二項裝蹄ニ必要ナル蹄鐵工ヲ徵用スル爲メニ軍部及ヒ地方官衙役所役場ノ取扱フ可キ事務ヲ規定スルモノトス

第二 馬匹徵發ハ借上及ヒ買上ノ二種トス 但シ借上中之ヲ買上ニ變更スルコトアル可シ又特別ノ時機ニアラサレハ牝馬ヲ徵發スルコトナシ

第三 徵發馬匹ノ検査徵發上ノ結約其他徵發一切ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ第一師團長ハ毎年各検査場ノ爲メニ徵發馬匹委員ヲ定メ其官姓名ヲ第一師團徵發馬匹區域内ノ府縣知事ニ通牒ス

第四 動員ノ爲メニスル第一師團ノ蹄鐵工徵用及徵發馬匹區域左ノ如シ

府縣名	蹄鐵工徵用區域	徵發馬匹區域
東京府	麻布區、麴町區、神田區、日本橋區、京橋區、赤坂區、四ツ谷區、小石川區、荏原郡、豊多摩郡、南多摩郡、北多摩郡、西多摩郡、伊豆七島	全郡區
群馬縣	全郡市	全郡市
埼玉縣	比企郡秩父郡兒玉郡入間郡大里郡	縣内全郡市

神奈川縣	全郡市	全郡市
山梨縣	全郡市	全郡市
長野縣	全郡市	小縣郡南佐久郡北佐久郡諏訪郡東筑摩郡

第五 第一師團ノ徵發馬匹ノ差出場所即チ検査場ハ左ノ八個所トス

東京市青山	東京府全郡區
群馬縣高崎町	群馬縣全郡市(山田、新田、佐波、邑樂郡ヲ除ク)
群馬縣太田町	群馬縣山田新田佐波邑樂郡
埼玉縣浦和町	埼玉縣全郡市
神奈川縣溝ノ口	神奈川縣全郡市(三浦郡ヲ除ク)
神奈川縣横須賀町	神奈川縣三浦郡
山梨縣猿橋町	山梨縣全郡市
長野縣小諸町	長野縣小縣南北佐久諏訪東筑摩郡

第六 検査上不合格ノ馬匹ヲシテ可成無益ノ往復ヲ減セシメンカ爲メ検査場所在ノ郡市區ヲ除キ其他ノ郡市區ニ派出検査員ヲ差遣シ馬匹ヲ預シメ検査セシムルコトアリ 本派出検査場ノ數及ヒ地名ハ毎年之ヲ定ムルモノトス

賠償



第七 派出検査場及ヒ検査場所在ノ郡市區内ニ於ケル馬匹ノ輸送ヨリ生スル費用ハ總テ其徵發郡市區ノ負擔トス

第八 派出検査場ニ於テ合格ト預定シ之ヲ検査場ニ赴カシメタル馬匹ニシテ検査場ニ於テ合格セサルモノ若クハ官ノ都合ニ依リ合格スルモノ不用ト爲リタル時ハ検査場ヨリ其徵發郡市區役所ニ至ル里程ニ應シ徵發事務條例第四十五條ニ依リ賠償ス

第九 凡テ賠償ハ借上翌日ヨリ解雇當日迄下附ス

第十 合格馬匹ヲ検査場ヨリ所屬部隊ニ牽連レシメタル時及ヒ解雇ニ際シ馬主ヲ徵發區域外ニ呼寄セタル時ハ往復手當トシテ十二里毎ニ一日ノ雇賃ヲ賠償ス

第十一 蹄鐵工差出場所ニ參著スル爲メ鐵道ヲ用ヒシ時ハ下等賃金ヲ人力車ヲ用ヒシ時ハ一里拾錢ノ割ヲ以テ旅費ヲ支給ス蹄鐵工若シ其携帶スル裝鐵器具手荷物ト爲スコト能ハサル數量ナル時ハ其運搬實費ヲ支給ス

第二章 地方ニ係ハル事務

第十二 第一師團徵發馬匹區域内ノ各府縣知事ハ其管下各郡市區現在ノ乘馬輓馬駄馬中軍用ニ耐フ可キモノヲ郡市區長ヲシテ預メ選定セシメ四月一日現在ノ豫算調書ヲ以テ各郡市區馬匹現在表ヲ作り買上馬匹評價委員豫定人名簿(徵發事務條例第五十五條ノ分)ト共ニ毎年一月十日迄ニ第一師團長ニ通牒ス可シ(第一書式)

第十三 第一師團ノ蹄鐵工徵用區域内ノ各府縣知事ハ四月一日現在ノ豫算調書ヲ以テ其管下

區域内ニ現住スル蹄鐵工(豫備役及ヒ後備役ニ在ルモノハ豫備役後備役ノ肩書ヲ附シ)ノ住所姓名表ヲ毎年一月十日迄ニ第一師團長ニ通牒ス可シ(第二書式) 但其後ノ異動ハ十月盡日迄ニ通牒ス可シ

第十四 第一師團長ハ第十一條各府縣知事ヨリスル調査ニ基キ毎年二月一日迄ニ徵發馬匹府縣配當表ヲ製シ第一師團徵發馬匹區域内ノ各府縣知事(以下單ニ各府縣知事ト稱スルモノ)皆第一師團徵發馬匹區域内ノ府縣知事ヲ云フニ通牒ス各府縣知事ハ其馬數ニ應シ健康ノ馬匹ヲ徵發シ得可キ目的ヲ以テ検査場附近ノ郡市區ニ配當シ二月十五日迄ニ之ヲ其郡市區長ニ告達シ同二十日迄ニ第一師團長ニ移牒ス可シ

第十五 第一師團長ハ前條配當表ニ基キ派出検査場ノ數及ヒ其設ク可キ場所ヲ定メ三月十日迄ニ各府縣知事ニ通牒ス各府縣知事ハ之ヲ當該郡市區長ニ告達ス可シ

第十六 郡市區長ハ第十二條徵發馬匹ノ配當ヲ受クル時ハ其乘馬輓馬駄馬ノ種類ニ應シ其管下最良ノ馬匹ヲ撰ミ三月二十五日迄ニ其趣ヲ馬主ニ達シ置ク可シ其他郡市區長ハ預備トシテ其配當數ノ半數ニ等シキ馬匹ヲ撰ミ同上本人ニ達シ置ク可シ

第十七 郡市區長ハ徵發馬匹名簿(第四書式)預備徵發馬匹名簿ヲ作り備ヘ置クモノトス本名簿ノ取扱ヒ及ヒ徵發ノ命令ヲ馬主ニ傳フル爲メ預シメ脚夫ヲ定メ置ク可シ

第十八 第一師團長ハ第十二條各府縣知事ヨリスル調査ニ基キ蹄鐵工ノ人名及ヒ其參著ス可キ部隊即チ差出場所ヲ徵發書ヲ以テ三十日迄ニ各府縣知事ニ通牒ス各府縣知事ハ之ヲ



市區町村長ニ移シ市區町村長ハ徵發書ヲ格納シ置キ其趣ヲ本人ニ達シ置ク可シ(第二書式) 但徵發書ハ本人ノ異動若クハ官ノ都合上變更スルニアラサレハ毎年同一徵發書ヲ應用スルモノトス

第十九 市區町村長ハ徵發蹄鐵工ノ人名簿ヲ作り之ヲ備ヘ置クモノトス  
本名簿ノ取扱ヒ及ヒ徵發ノ命令ヲ傳フル爲メ預シメ脚夫ヲ定メ置クコトニ就テハ第十七條ニ準據ス可シ

第二十 第一師團長ハ各検査場ニ於ケル徵發馬匹委員ノ官姓名ヲ毎年三月十日迄ニ各府縣知事ニ通牒ス各府縣知事ハ之ヲ當該郡市區長ニ達シ置ク可シ

第二十一 徵發書ハ電信(昭較電報)ヲ以テスルヲ常トス其例概ネ左ノ如シ 但シ總テ本命令ヲ受ケタル者ハ命令ト同文ノ電信ヲ第一師團長ニ發送シ受領ヲ證スルモノトス書面ヲ用ユル時モ亦本例ニ依ル

馬匹ヲ徵發ス 府縣知事宛 第一師團長名

右ノ電報ハ徵發馬匹府縣配當表ニ示ス馬匹悉皆ヲ徵發スル時ニ用ユ若シ一部ノ馬匹ヲ徵發セントスル時ハ

某検査場ニ於テ乘三十輓四十駄八十ヲ徵發ス

乘馬三十頭輓馬四十頭駄馬八十頭ノ畧語ナリ

蹄鐵工ヲ徵發ス 市區町村長宛 第一師團長(隊長)名

右ノ電報ハ第十八條兼テ徵發ノ告知ヲ受ケタル蹄鐵工悉皆ヲ徵發スル時ニ用ユ若シ一部ノ蹄鐵工ヲ徵發セントスル時ハ其人名ヲ示ス可シ

第二十二 郡市區長馬匹徵發ノ命令ヲ受クレハ晝夜ヲ論セス預定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ馬主ニ告達シ六時間以内ニ出發シ一晝夜十二里ヲ以テ検査場若クハ派出検査場ニ參著シ徵發馬匹委員ノ検査ヲ受ケサシメ其所要馬數ヲ充タサシム可シ郡市區長ハ其時刻ヲ遅延セシメサル義務アルモノトス 但シ脚夫ノ出發及ヒ歸著時刻ハ郡市區長ヨリ之ヲ當該検査場徵發馬匹委員ニ通報ス可シ

第二十三 郡市區長ハ徵發ニ臨ミ馬匹到著以前ニ役員一名ヲ所轄検査場ニ出頭セシメ徵發馬匹委員ニ届告セシメ徵發事務結了ニ至ル迄其地ニ在テ事務ニ服セシム可シ

第二十四 郡市區町村長ハ徵發ニ臨ミ馬主ヲシテ左記ノ馬匹名簿竝ニ物品ヲ持參セシム可シ  
馬匹名簿 (用紙半紙)

- 一 馬主竝ニ口附人ノ住所姓名 何府(縣)何區(郡)(市)何町(村)番地何之某
  - 二 馬匹ノ年齢 何歳
  - 三 毛色及別徵
  - 四 馬匹ノ價格 何拾何圓何拾錢
- 持參ス可キ品目

一 綱具(手綱)及ヒ駄具(乘馬輓馬ニハ綱具ヲ要セス)



- 二 飼麥一斗五升入ル、吠或ハ袋
- 三 蹄鐵ヲ裝セサル馬匹ハ藁沓六足
- 四 飯行李一個及ヒ人馬ノ雨具

第二十五 町村長蹄鐵工徵發ノ達ヲ受クル時ハ兼テ受領シ在ル徵發書ニ月日ヲ記入シ預定ノ脚夫ヲ以テ本人ニ渡シ六時間以内ニ（蹄鐵工ニ在テハ裝鐵所要ノ器具ヲ携ヘ轡ハ其容積過大ナレハ之ヲ携帶セサルモ妨ケナシ）出發シ汽車若クハ人力車ヲ用ヒ一晝夜十六里詰ヲ以テ其告示部隊へ到着セシム可シ町村長ハ右ノ時刻ニ遲延セシメサルノ義務アルモノトス

第三章 軍部ニ係ル事務

- 第二十六 徵發馬匹委員長ハ參謀長同副委員長ハ輜重兵第一大隊長ヲ以テ之ニ任シ徵發馬匹ニ係ル一切ノ事務ヲ掌理セシム
- 第二十七 各検査場ノ徵發馬匹委員ハ毎年二月一日迄ニ之ヲ任命ス其組織概テ左ノ如シ  
士官一人 獸醫官一人 軍吏若クハ陸軍一二等書記一名委員助手トシテ下士四名兵卒若干名其他派出検査員トシテ各派出検査場ノ爲ニ下士一名兵卒二名 但委員中獸醫官若クハ地方獸醫ヲ使用スルコトアリ
- 第二十八 各派出検査場ニ要スル派出検査員ノ人員ハ毎年二月一日迄ニ之ヲ達ス
- 第二十九 前條下士兵卒ハ可成馬匹ノ善惡ヲ鑒別シ得ヘキ技術アルモノヲ撰定シ平時預シ

メ之ヲ告達シ置ク可シ步兵第十五聯隊ニ於テ若シ其人員ヲ欠ク時ハ一派出検査場ノ爲メニ地方獸醫一名ヲ雇用スルヲ得然ル時ハ其趣ヲ師團司令部ニ報告ス可シ（第三書式參照）

第三十 徵發馬匹委員ハ三月中旬迄ニ師團司令部ニ會同シ徵發事務ノ會議ヲ開キ諸物品ヲ調査シ置ク可シ其時日ハ參謀長ヨリ之ヲ達ス

第三十一 馬匹徵發ノ命令アル時ハ各委員ハ徵發書寫、受領證票、馬匹番號札、其他所要ノ物品ヲ携帶シ現金前受ヲ爲シ派出検査員及委員助手ヲ引卒シテ出發シ検査場到着ノ上地方役員ト協議シ検査場ヲ定メ然ル後所要ノ訓示ヲ與ヘ派出検査員ヲ各派出検査場ニ差遣ス可シ

第三十二 馬匹検査場ニ參著スル時ハ委員ハ地方役員ヨリ馬匹名簿ヲ受領シ其參著順序ニ從ヒ之ヲ検査シ合格不合格ヲ其馬匹名簿ニ記入シ合格馬匹ニハ預定買上價格ヲ定メ番號札ヲ馬頸ニ附著シ馬匹受領證票ノ各項ヲ記入シ其乙證票ヲ馬主ニ下附シ馬匹略名簿（第四第五書式）ト共ニ受領隊ニ引渡ス可シ

第三十三 馬匹検査ノ準據トス可キ者概テ左ノ如シ

甲 乘馬 年齢五歳以上ニシテ現在又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノ及ヒ轡馬駄馬中ヨリ選用スルモノ

乘馬ハ（駄馬轡馬ヨリ採用セシモノモ亦同シ）検査成績ニ應シ甲乙ノ二種ニ區分シ甲ハ參謀官野戰隊副官士官騎兵補充隊等ノ所要ニ充テ乙種ハ留守諸隊輜重監視人等ノ



用ニ充ツ

甲乙ノ種類ハ番號札ニ記載ス可シ假令ハ乗甲船第五號乘乙取第十號等ノ如シ馬匹番號札ノ裏面ニハ其送附ス可キ部隊名ヲ記ス可シ以下皆同シ

乙 鞍馬 身幹四尺五寸以上ニシテ現在又ハ嘗テ鞍馬ニ使用セシモノ及ヒ駄馬中ヨリ撰用スルモノ

丙 駄馬 凡ソ三拾貫目ヲ負擔シ連日ノ勞働ニ耐ユヘキモノ

駄馬ハ檢査成績ニ應シ甲乙丙ノ三種ニ區分シ甲ハ鐵舟桁板等ヲ負載シ絶テ驚愕セサルモノニシテ第一ニ撰用シ山砲及ヒ大小架橋縱列用トス乙ハ體格駿強ナルモノニシテ第二ニ撰用シ各隊大小行李衛生隊電信隊彈藥縱列用トス丙ハ輕重諸縱列用ニ充ツ

甲乙丙ノ種類ハ番號札ニ記載スヘシ駄甲佐第二十號駄乙古第二十五號駄丙境第五十號等ノ如シ

第三十四 乘馬具駄具ヲ併セテ徵用ス可キヤ否ヤハ委員預メ命令ヲ受クルモノトス不用ノ馬具ハ馬主ヲシテ檢査場所在ノ地方ニ預ケ置カシメ部隊ヘハ所持セシメサルモノトス

第三十五 徵發馬匹受領隊ハ徵發馬匹委員ヨリ馬匹ヲ受領シ之ヲ各部隊ニ送附スルヲ掌ルモノニシテ其編成左ノ如シ(編成表ハ追テ指示スヘシ)但シ東京檢査場ヨリ馬匹ヲ受領スヘキ各隊竝

ニ步兵第十五聯隊東京灣要塞司令部同砲兵聯隊ハ適宜ノ受領人ヲ差出ス可シ又高崎若クハ横須賀檢査場ヨリ東京ニ送ルヘキ馬匹ハ步兵第十五聯隊若クハ東京灣要塞砲兵聯隊ヨリ馬匹凡ソ五十頭ニ付キ下士若クハ兵卒一名ノ護送人ヲ出シ之ヲ熊谷宿泊所若クハ青山檢査場ニ護送ス可シ

第三十六 徵發馬匹委員其他馬匹徵發ニ係ル將校下士兵卒ニハ凡テ丙表旅費ヲ支給スルモノトス受領隊及ヒ護送人ハ銃器ヲ携フルニ及ハス

第三十七 馬匹ヲ陸送スルノ場合ニ於テハ馬匹宿泊所ヲ設ケ馬匹宿泊ニ關スル一切ノ事項ヲ掌理セシム其個所及ヒ人員竝ニ派遣部隊左ノ如シ(馬匹宿泊所個處人員派遣部隊表ハ追テ指示ス)但シ馬匹ヲ鐵道ヲ以テ輸送スル場合ニ於テハ乘車及ヒ下車場ニ停車場司令官ヲ置ク 但シ軍吏若クハ書記ハ第一師團監督部ノモノヲ用ユ

第三十八 宿泊所司令官ハ人馬宿泊一般ノ事務ヲ總轄シ計官ハ現金前受ヲ爲シ人馬ノ給養ヲ處理スルモノトス

第一書式 (用紙美濃野紙)

明治何年何月調

何 府 縣

各郡(市)(區)徵發馬匹現在表

第十類 兵事 第二款 徵發



郡(市)(區)名	乘馬		不合馬		合鞍		不合馬		合鞍		不合馬		合計
	合	格	合	格	合	格	合	格	合	格	合	格	
何々市	五	一〇二	三〇	〇	一八	ク	五	ク	七〇	一五	一四〇	八八	四一七
何郡	三	〇	一五	〇	六	二	三〇	ク	三六	二五	一〇〇	二四	二四一
何郡	九	〇	四一	〇	九	ク	四二	ク	一四一	一三三	九一	六八	五四三
備考	耕馬ハ總テ駄馬ノ内ニ合算ス可シ 乘鞍駄馬合格牡馬ハ買上平均格價ヲ各郡市ノ相當區畫中合格牡馬數ノ左方ニ朱書記入スルモノトス												

第二書式 (用紙美濃野紙)

明治何年何月調

何府縣

六十四

蹄鐵工住所姓名表

府	縣	郡	市	區	町	村	字	番	地	市區町地名	姓	名
											豫備役	何之某
											豫備役	何之某
											豫備役	何之某
備考	獸醫ト蹄鐵工トハ別紙ニ調製ス可シ 市區町村役場所在地名ノ下ニ二欄ヲ增加シ其一欄ハ各自ノ年齢(大畧ニテ可ナリ)次ノ一欄ニハ前年度ニ於ケル各自所得金高ヲ記入ス											

第十類 兵事 第二款 徵發

六十五



第三書式 (師團司令部ニ於テ調製)

蹄第何號

徵發書

何府縣何郡市區何町村字何番地

蹄鐵工 何 之 某

右徵用候條遲滯無ク東京市赤坂區步兵第一聯隊へ參著セ  
シム可シ

明治 年 月 日 午 時 分

團 隊 長 名 印

何府縣何郡市區

何町村長

印 國 師 團 部 令 第 印

印 國 師 團 部 令 第 印

蹄 鐵 工 何 之 某

右 何 之 某 印

明 治 何 年 何 月 何 日 午 前 後 何 時 何 分

何 府 縣 何 郡 市 區 何 町 村 長 印

傳達書

蹄第何號徵發書送附候條徵發書ノ通り遵行  
相成度候也

明治何年何月何日午前何時何分  
後何時何分

受領證

何之某ニ宛タル蹄第 號徵發書正ニ受領候  
也

明治何年何月何日午前何時何分  
後何時何分

右 何 之 某 印

右家族(父)(兄)等

何之某殿

何町村長印

何町村長殿

何之某 印

徵發蹄鐵工心得書

一本徵發書受領ノ時刻ヨリ六時間以内ニ出發シ(裝蹄ニ要用ノ諸道具(剪鉗一裝鐵鎚一削蹄  
刀三蹄鑪一小目打一裝鐵火鉗一)ヲ携へ)汽車若クハ人力車ヲ用ヒ一晝夜少クモ十六里詰  
メヲ以テ表書記載ノ部隊へ參著シ本書ヲ出シテ届出ツ可シ 二部隊へ參著ノ上ハ寢具食  
料共總テ官給シ尙ホ日當ヲ給ス 三汽車ヲ用ユル時ハ下等賃金ヲ人力車ヲ用ユル時ハ一  
里拾錢ノ割ヲ以テ部隊參著ノ上支給ス 但シ裝蹄道具手荷物ト爲スコト能ハサル數量ナ  
ル時ハ其運搬實費ヲ支給ス

本人居住地ヨリ所命部隊ニ至ル里程證明

汽車路

何哩何チエン何リング

陸 路

何里何丁何間何尺

旅行日數

何日間

町村長名 印

第四書式

(用紙美濃紙)



馬匹名簿

檢查番號

所有者住所氏名	何府(縣)何區郡(市)何町(村)何番地	何之誰
口附人住所氏名	前同斷	
役種	乘(輓)(駄)	
年齡	何年何歲	
產地	何國(雜種)	
毛色及別徵	何々色	
寸尺	何尺何寸	
價格	何百何拾圓	確定
屬具	一綱具(手綱) 三何々 二何々 四何々	
名簿調製年月	明治何年何月	調製員記名印

第五書式

徵發馬匹受領甲證票

何第

號

馬主住所姓名	
口附人住所姓名	
馬匹借上月日	馬匹解雇月日
徵用日數	馬匹解雇地
馬匹解雇地ヨリ徵發郡市 區ニ至ル里程	口附人徵用日數
口附人解雇月日	口附人解雇地ヨリ徵發郡 市區ニ至ル里程
預定買上價格	馬匹一日ノ賃金
口附人一日ノ賃金	賃金假渡總高
明治年月日	於何檢查場
	第一師團徵發馬匹委員
	陸軍



割印







馬主心得書

一口附人ノ不注意ヨリ生シタル疾病傷痍ハ假令癈斃ニ至ルモ自辨タルヘシ  
 二解雇ノ際地方役所ヨリ解雇地解雇月日ノ通知ヲ受ケタル時ハ其日限ニ後レサ  
 ル様參著シ係員ノ指揮ヲ受ク可シ若シ遅刻シタル時ハ其遅刻ヨリ生スル費用  
 ハ馬主ノ自辨タル可ヘシ  
 三本證票ハ保存シ解雇ノ時係員ニ差出ス可シ

乙 證 票 裏 面

第三款 雜件

○甲第四十二號

明治十四年五月十一日

陸軍武官結婚條例別冊ノ通被相定候條此旨布達候事 但別冊ハ郡役所へ下渡置候條同所ニ於テ披閱スヘシ

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重シス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家  
 政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品  
 位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ  
 左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官竝ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ  
 在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レトモ再服役以上ノ下士竝ニ豫備後備軍  
 服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得 但憲兵竝ニ會計軍醫馬醫軍  
 樂各部ノ下士卒ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得



第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿奧書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在

テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官奧書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲

メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元證書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ

之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中少尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム

其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケ

ナシ 但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算

シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ 但シ家計保護金ハ本文同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上頂官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結 婚 願

使府縣國郡區町村  
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生  
年號月何年何箇月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證金(家計保護金證書)相添差出候  
間御許可被下度此段奉願候也

年 號 月 日

官 姓 名 印



太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官姓名印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村  
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生  
年號月何 何箇月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戸長  
ル地ハ區長

姓名印

第三號書式

一家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

○丁第百九號

明治十八年七月九日

官姓名印

近衛諸隊各郡内ニ於テ演習施行ノ節ハ其時々相達來リ候處一泊二泊行軍ノ如キハ多ク其期ニ臨ミ俄ニ施行致シ候義ニ付以來ハ右等ニ在テハ本縣へ通報ト同時ニ演習地方郡役所又ハ戸長役場へ該團隊ヨリ直ニ通報爲致候歟又ハ臨時士官下士ヲ派シ可申入旨近衛ヨリ通知有之候條其旨豫テ戸長へモ達置諸事差支無之様可取計此旨相達候事

○丁第百四十號

明治十八年九月二十四日

郡役所

本年七月本縣丁第百九號ヲ以テ近衛諸隊演習施行ノ義相達置候處東京鎮臺諸隊行軍演習ノ節モ右同様相心得諸般差支無之様可取計該臺通知ニ依リ此旨相達候事

○訓令第九十四號

明治二十三年十一月十四日

郡役所 警察署  
警察分署 町村役場

陸軍諸隊機動演習ノ節人民群集シ甚シキニ至テハ人民戰兵ニ混入シ一見彼我ヲ辨別スルヲ得ス演習上妨害不少加フルニ田畑ノ損害ヲ醸ス等ノ儀往々有之不都合ニ候條各觀覽人民ハ必ス戰兵ニ遠カリ前顯ノ如キ妨害ヲ爲サシメサル様厚ク注意スヘシ

○乙第九十一號

明治十八年七月二十四日

郡役所  
戸長役場

兵事會規則左ノ通相定候條此旨相達候事

兵事會規則

第一條 本會ハ兵事上ニ關スル事項ヲ商議スル爲メ每郡役所ニ設立スルモノトス其議目左



- ノ如シ
- 一 兵事ニ關スル布告布達等ヲ實施スルノ方法
  - 二 兵籍諸名簿ノ加除等ヲ實施スルノ方法
  - 三 在郷諸兵ニ軍人タル精神ヲ養成セシムルノ方法
  - 四 徵兵慰勞義會ヲ興記スルノ方法
  - 五 兵事ニ緊要ト認ムルモノアルハ郡長戸長ノ間ニ於テ互ニ通知又ハ請求スルノ方法
  - 六 地方行軍演習ノ節取扱方法
- 第二條 會員ハ郡書記兵事主任及ヒ戸長トス 但戸長差支アルトキハ筆生ヲシテ代理セシムヘシ
- 第三條 會長ハ郡長トス若シ差支アルトキハ郡書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第四條 書記ハ郡書記中ヨリ之ヲ選任シ本會ノ雜務ヲ處辨セシム
- 第五條 議事ノ細則ハ郡長之ヲ定ムヘシ
- 第六條 本會ハ毎年一回之ヲ開ク其開閉ハ郡長之ヲ命シ會期ハ三日以内トス 但郡長ハ其開期ヲ縣令ニ申報スヘシ
- 第七條 會議ノ議案ハ郡長之ヲ發シ又會員中ヨリ意見ヲ提出シ會長ノ許可ヲ得テ議題トナスコトヲ得
- 第八條 兵事課長又ハ同課員ヲ本會ニ出シテ其意見ヲ諮問又ハ會員ノ質疑ニ答辯セシムル

コトアルヘシ

第九條 會員ハ會長又ハ主務課員ニ向ツテ兵事ニ關スル都テノ疑件ヲ質問スルコトヲ得

第十條 郡長ハ本會ノ評決録ヲ製シ各會員ヲシテ連署セシメ之ヲ縣令ニ申報スヘシ

○乙第二十二號 明治十九年二月十八日

在郷兵召集其他兵事ニ要用ニ付來ル三月限リ左ノ書式ニ據リ戸長役場前揭示場ニ里程表ヲ掲標シ且從前里程標及ヒ境界標建設アル町村ハ其標柱側面又ハ背面ヘモ記入スヘシ 但揭示場ニ掲標シ難キ分ハ標札ニ記載シ其側ニ建設スヘシ

右相達候事

揭示場ニ掲標ノ書式

自聯合町村 至各兵營 里程表 板材適宜

何町(村)

東京鎮臺佐倉營所ヘ  
高崎兵營高崎兵營ヘ

何里何町  
何里何町  
何里何町

以下右ニ倣ヒ連記スヘシ

里程標ニ記入ノ書式

東京鎮臺佐倉營所ヘ  
高崎兵營高崎兵營ヘ

何里何町  
何里何町  
何里何町



44+C-31

境界標ニ記入ノ書式

自當町(村)中央	東京鎮臺へ 佐倉營所へ 高崎兵營へ	何里何町 何里何町 何里何町
----------	-------------------------	----------------------

○丙第二百六十四號 明治二十九年六月二日 郡 役 所

管内ニ於テ軍馬ノ購買ヲ行フ旨達アルトキハ左ノ集会所並區域ニ基キ馬匹所有者ニ告示シ  
購買上便宜ヲ得ル様取計フヘシ

集 合 所 區 域

入間郡	川越町	入間郡	比企郡
大里郡	熊谷町	大里郡	秩父郡
南埼玉郡	岩槻町	北足立郡	南埼玉郡
			北葛飾郡
			北埼玉郡

○訓令第二百二十九號 明治二十年九月六日 郡 長 役 所

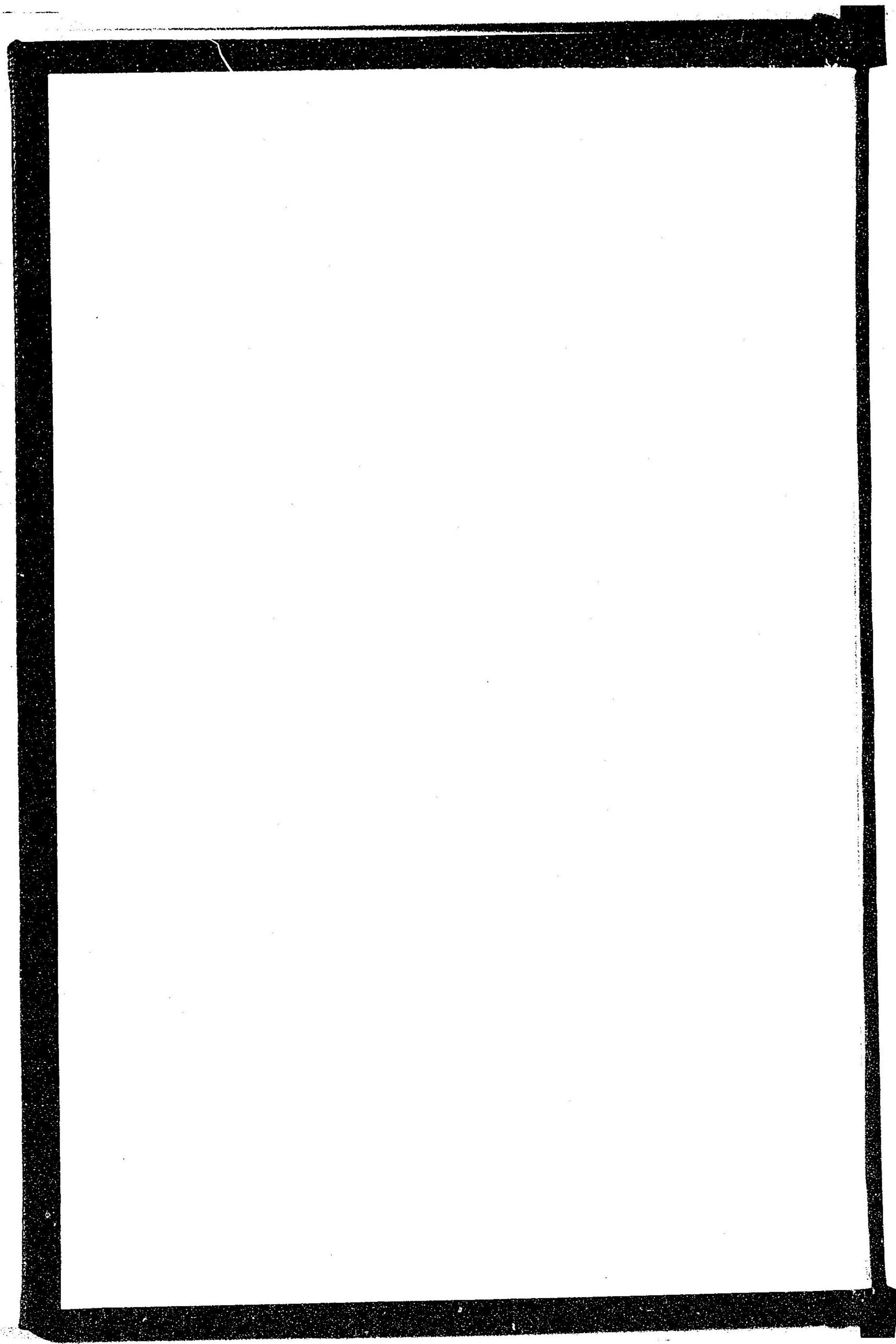
陸軍又ハ海軍恩給令ニ依リ恩給並ニ扶助料賑恤金給助金等出願中轉籍寄留替若クハ改氏名  
等異動アルトキハ其都度速ニ届出シムヘシ

現 行 埼 玉 縣 令 達 類 集 上 卷 終

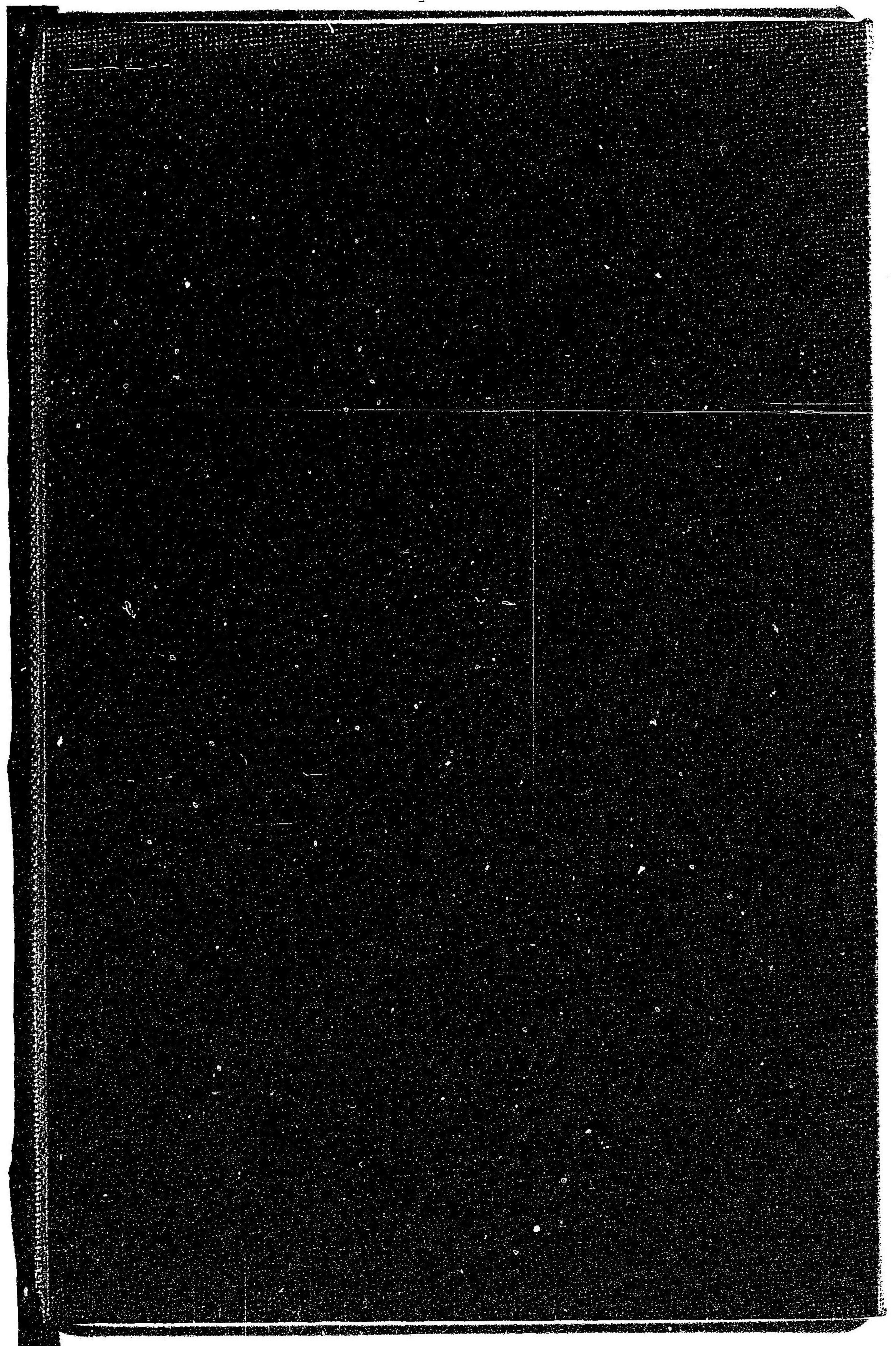














禁電子式複写

031271-001-5

CZ-1113-34-05

現行埼玉県令達類集

埼玉県内務部

M30-36

BBD-0385





